

技術概要書（様式）

※別紙2

技術分類	安全・防災 維持管理 環境 コスト ICT 品質 （該当する分類に○を付けてください）																				
技術名称	多分割カルバート工法	担当部署	技術本部 開発研究課																		
NETIS登録番号	TH-030024-VE, QS-130030-A	担当者	松本康資																		
社名等	(株)ヤマックス	電話番号	096-383-1675																		
技術の概要	<p>1. 技術開発の背景及び契機</p> <p>従来、大型のコンクリート構造物は、寸法や重量が大きく製造や運搬が困難であることや、現場打ち構造物の価格に比較して製品の価格が高い傾向にあることなどから、一般的に現場打ちコンクリートで構築されている。</p> <p>しかし近年、様々なプレキャストコンクリート接合技術の開発や現場打ち工における技術者不足等の観点から、安定した品質のプレキャスト製品のニーズは高い。</p> <p>このような状況を踏まえ、九州大学や熊本大学と共に分割式大型プレキャスト部材の接合部を対象とした曲げ耐力やせん断耐力の検証を行い、分割組立式ボックスカルバートを代表とするプレキャスト部材接合技術についての技術的知見を得た。</p> <p>2. 技術の内容</p> <p>運搬可能な寸法や重量にてプレキャスト部材を工場生産し、施工現場にて組立て接合することで構造物を構築する分割式プレキャスト製品を提供する。</p> <p>形状は矩形のボックスカルバートやアーチカルバート、さらには二連・三連・・・多連ボックスカルバートとご要望の形状にて設計提案できる。</p> <p>また、ご要望の設計条件にも、常時、L1地震動、L2地震動や耐久性向上のためのひび割れ幅制御可能なPC構造と幅広く対応可能である。</p> <p>3. 技術の効果</p> <p>従来工法に比べ、工期の短縮や技術者不足を解消できる省人化、および構造物の高耐久性化等多くの利点が図れる。</p> <p>また、工場生産することで安定した品質が確保できる。</p> <p>さらには、PC構造を採用することで、ひび割れ制御や損傷性制御といった付加価値により、残留変位やひび割れ幅を小さくでき、長期供用にも対応できるプレキャスト製品となる。</p> <p>4. 技術の適用範囲</p> <p>現在設計されているコンクリート構造物全般に適用可能である。</p> <p>分野別でも、土木、港湾、農水、その他にも対応でき、あらゆる形状、条件にて設計可能である。</p> <p>5. 活用実績</p> <table border="0"> <tr> <td>国の機関</td> <td>33 件</td> <td>(九州</td> <td>33件</td> <td>、九州以外</td> <td>0件)</td> </tr> <tr> <td>自治体</td> <td>16 件</td> <td>(九州</td> <td>16件</td> <td>、九州以外</td> <td>0件)</td> </tr> <tr> <td>民間</td> <td>0 件</td> <td>(九州</td> <td>0件</td> <td>、九州以外</td> <td>0件)</td> </tr> </table>			国の機関	33 件	(九州	33件	、九州以外	0件)	自治体	16 件	(九州	16件	、九州以外	0件)	民間	0 件	(九州	0件	、九州以外	0件)
国の機関	33 件	(九州	33件	、九州以外	0件)																
自治体	16 件	(九州	16件	、九州以外	0件)																
民間	0 件	(九州	0件	、九州以外	0件)																

6. 写真・図・表

